

令和2年度 全県教育課程説明会 「国語科」部会（中学校）

1 国語科の改訂のポイント

中学校国語科の目標

旧) 国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。



新) 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

3つの柱に沿った資質・能力の整理

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。【知識及び技能】
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。

【思考力、判断力、表現力等】

- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】

2 学習評価のポイント

（『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』（国立教育政策研究所）による）

- (1) 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順（第2編）

※学習指導要領に示す各教科等の「第2 各学年の目標及び内容」の「2 内容」の記載はそのまま学習指導の目標となりうるものである。

学習指導要領の内容に基づき、「児童・生徒が学習中にどのような姿を見せたら目標が実現したといえるか」を想定し、児童・生徒の実態・学習活動・扱う教材を検討した上で、評価規準を作成する。

観点	【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
観点ごとのポイント 評価規準を作成する際の	基本的に、当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する【知識及び技能】の指導事項について、評価規準を作成。（「文末を～している」とする） ※育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて評価規準を作成することもある。	基本的に、当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する【思考力、判断力、表現力等】の指導事項について、評価規準を作成。（「文末を～している」とし、文頭に領域名を入れる） ※育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて評価規準を作成することもある。	粘り強さ、自らの学習の調整、他の2観点において重点とする内容、当該単元の具体的な言語活動のすべてを含め、単元の目標や学習内容等に応じて、その組み合わせを工夫する。

↓ 第1学年の【思考力、判断力、表現力等】の「A話すこと・聞くこと」ア 紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする活動を通じた指導の評価規準の例

1学年「話すこと・聞くこと」アでの評価規準例	<ul style="list-style-type: none"> ・指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。 * 学習指導要領 2内容「知識及び技能」(1) エの記載の一部を用いた例 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。 ・「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。 * 2内容「思考力、判断力、表現力等」のA話すこと・聞くこと(1)ア及びエの記載を用いた例 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉を通じて積極的に人と関わったり、学習の見通しをもって思いや考えを確かなものにしたりしながら、言葉を適切に使おうとしている。 * 当該学年目標(3)等を参考に作成（くわしくは欄外※1参照）
------------------------	--	---	---

※ 1 特に、粘り強さを発揮してほしい内容と、自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動を考えて授業を構想し、評価規準を設定することが大切である。そこで以下の①から④の内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて、その組合せを工夫することが考えられる。

- ① 粘り強さ〈積極的に、進んで、粘り強く等〉
- ② 自らの学習の調整〈学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等〉
- ③ 他の2観点において重点とする内容（特に、粘り強さを発揮してほしい内容）
- ④ 当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）

（例）積極的に ① 集めた材料を整理し ③、学習の見通しをもって ② 報告しようとしている ④。

粘り強く ① 自分の考えが伝わる文章になるように工夫し ③、今までの学習を生かして ② 説明する文章を書こうとしている。

※ 2 これらを踏まえた上で、生徒の学習の状況を適切に評価するために、実際の学習活動を踏まえて「Bと判断する状況の例」、「Cと判断する状況への手立ての例」を評価規準に沿って想定するようにする。

(2) 単元ごとの学習評価について（第3編P.35～）

- ① 単元の目標を作成する
単元で取り上げる指導事項を確認し、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」ごとに目標を設定する。
目標の実現に適した言語活動を、言語活動例を参考にして位置付ける。
- ② 単元の評価規準を作成する
国語科においては、指導事項に示された資質・能力を確実に育成するため、基本的には「内容のまとまりごとの評価規準」が単元の評価規準となる。本資料3（1）参照。
- ③ 「指導と評価の計画」を作成する
単元のどの時間にどの評価規準に基づいて、どんな方法で評価するかを整理する。
- ④ 授業を行う
観点別学習状況の評価を行い、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。
- ⑤ 観点ごとに総括する
観点ごとの総括的評価（A、B、C）を行う。

(3) 事例概要（第3編P.40～）

授業の一連の流れを示した上で、評価の3観点について、「おおむね満足できる」状況（B）の例、「努力を要する」状況（C）への手立ての例を示している。

学年	単元名	内容
第1学年	「新たに知った言葉を紹介する～聞き手を意識して話す～」(P.42～49)	指導と評価の基本的な考え方について概説
第3学年	「投書を書こう ～多様な読み手を想定して文章全体を整える～」(P.50～57)	「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法の一例
第2学年	『「走れメロス」を読んで、登場人物の言動の意味を語り合おう」(P.58～65)	グループ活動における個別の評価方法の一例
第2学年	「清少納言と自分のものの見方や考え方を比べる」(P.66～72)	古典教材において、「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する方法の一例

3 その他（情報提供等）

【参考資料】

《文部科学省 国立教育政策研究所》

- ・『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』

《神奈川県教育委員会》

- ・「教育課程編成の指針」
- ・「カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価」
- ・「学習評価を踏まえた授業づくりの道すじ」